

平成30年度学校評価〔自己評価〕（北海道上士幌高等学校）

評価基準 A：十分である（3. 2～） B：概ね十分である（2. 8～3. 2） C：やや不十分である（2. 4～2. 8） D：不十分である（～2. 4）

分野・領域	評価項目	教職員	保護者	評価	昨年度との比較および改善の方策
学習指導	1 個に応じた学習指導を行い、基礎・基本の定着を図っている	2. 94	3. 18	B	・3については昨年度に引き続きCである。 ・学習するメリットを生徒に感じさせるための工夫が必要。 ・学力差に応じた学習課題の作成と活用について研究する。 ・家庭学習にこだわらず学習時間を増やすことも必要。 ・町との連携も含め、放課後学習のシステムを再構築する。 ・5については昨年度より0. 6 4 高くなった。 ・相互参観の時間を確保し、参観後のグループワークを設定した。
	2 生徒の特性や進路希望に応じた学習指導により、学力の向上を図っている	2. 94	3. 13	B	
	3 課題等で生徒の家庭学習の習慣化を図り、生徒が自主的に学ぶ力を育てようとしている	2. 39	2. 97	C	
	4 学習指導要領に則った授業改善（観点別評価を含む）を進めている	3. 18		B	
	5 相互参観後の授業研究や授業評価アンケート等を活用して授業力の向上を図っている	3. 28		A	
生徒指導	1 日常的に行動観察や面談、カウンセリング等を通じて生徒理解に努めている	3. 28	3. 04	B	・1については昨年度より0. 2 5 低くなった。 ・授業における観察シートを積極的に活用する。 ・面談週間を年度当初に設定する。 ・スクールカウンセラーを積極的に活用する。 ・生徒会行事でリーダーの育成をより意図的に行う。 ・ゆる部活など、通常とは異なる部活の在り方を検討する。
	2 日常的に挨拶指導や身だしなみ指導を継続して行っている	3. 06	3. 29	B	
	3 生徒会活動や部活動を通して、生徒が主体的に行動できる力を育てようとしている	2. 94	3. 19	B	
	4 集団の一員として責任を果たし、また、互いに協力して助け合う姿勢を育てようとしている	2. 89	3. 09	B	
	5 巡回、面談、アンケート調査等を行い、いじめの未然防止や早期発見に努めている。	3. 11	3. 02	B	
進路指導	1 面談等で自己理解を深めさせ、能力や適性に応じた進路目標を設定できるよう指導している	3. 12	3. 16	B	・1年間に全員が1資格は必ず受検するなどの目標を立てる。 ・4については昨年度より0. 5 0 高くなった。 ・生徒が進路行事相互の関連性を意識しながら3年間を見通して進路学習に取り組めるよう、進路行事の配列を見直し、系統的な進路指導を展開する。
	2 社会人講話、模擬面接、職業体験(インターシップ)等を通じ、キャリア教育を進めている	3. 56	3. 23	A	
	3 各種検定・資格取得を奨励し、キャリアアップを促進をしている	3. 00	3. 30	B	
	4 3年間の系統だった進路指導を分掌主導で展開している	2. 83		B	
健康安全指導	1 生と性に関わる講話やボランティア活動の奨励等、生徒の健全な心身の育成に努めている	3. 50	3. 19	A	・3については昨年度より0. 2 7 低くなった。 ・教員間の情報共有と連携を土台に、生徒へ根気強く働きかける。
	2 避難訓練や薬物乱用防止講話、交通安全講習会等を通じ、防災・防犯・安全教育に努めている	3. 56	3. 18	A	
	3 日常の清掃活動や委員会活動を通じ、公共心や環境保全の意識を涵養している。	2. 89	3. 19	B	
学校運営	1 本年度の重点目標、経営方針、教育計画と照らし合わせながら教育活動に取り組んでいる	2. 89		B	・生徒に身に付けさせる力を明確化する。 ・職員全体の学校運営に関する参画意識を高める。 ・4（新設）については全項目の中で2番目に低い評価であった。 ・特定の職員の勤務がかさまないように業務分担を適切に行う。 ・ワークライフバランスに関する校内研修を行う。 ・6については昨年度より0. 2 2 高くなった。 ・C S コーディネーター配置が成果に繋がった。 ・HPのトップ画面を見やすくし、新着情報をこまめに発信した。
	2 教職員間の報告・連絡・相談を密にした協働態勢により行動連携を図っている	3. 00		B	
	3 教育活動の点検・評価を適切に行い、問題解決の道筋を共有して工夫・改善を図っている	3. 06		B	
	4 優先業務及び退勤時刻の意識化、業務外業務の削減等、時間外勤務の縮減に努めている	2. 72		C	
	5 教育公務員として、服務規律の保持に努めている	3. 67		A	
	6 町の関係機関等と連携した教育活動や公開授業により開かれた学校づくりに力を入れている	3. 72	3. 43	A	
	7 各通信の発行やホームページの更新等により、保護者や地域へ適度に情報を発信している	3. 39	3. 22	A	